

令和4年度国庫補助事業 松原市内遺跡発掘調査報告書

個人住宅建築工事等に伴う確認調査及び岡遺跡 E7- 3-52・53 発掘調査報告書

令和5年（2023）3月

松原市教育委員会

例　言

1. 本書は、松原市教育委員会が令和4年度に国庫補助事業として実施した市内遺跡発掘調査等事業の報告書である。
2. 発掘調査は令和4年（2022）4月1日を着手し、令和5年（2023）3月31日に終了した。ただし、本書には、整理作業等の都合から、令和4年4月1日～令和4年12月28日に実施した発掘調査及び令和2・3年度（2020・2021）に実施した個人住宅建築工事に伴う岡遺跡本発掘調査E7-3-52・53の調査結果を収録している。
3. 現地調査は櫻木規秀・芝田和也が担当した。また、整理作業ならびに本書1～3の執筆・編集は櫻木、4の執筆は大矢祐司が担当した。
4. 本書で用いた平面座標値は、全て世界測地系（2011成果）による平面直角座標系第VI系の数値で、m単位で表記した。また、本発掘調査図面の方針は座標北を使用し、確認調査図面の方針は真北または座標北を使用した。なお、水準は東京湾平均海面高（T.P.）を基準とした（例：H=10.00 m）。
5. 発掘した遺構は、検出順にアラビア数字で通し番号を付し、その後ろに遺構の種類を文字で付して、遺構台帳を作成した（例：S001溝）。なお、本書では、紙幅の都合上「S」記号、2・3桁目の「0」を省略して掲載した（例：1溝）。
6. 地層の土色については、確認調査は担当者の目視により、本発掘調査は小山正忠・竹原秀雄編『新標準土色帖 2016年版』（農林省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修）を用いて目視により比定した。
7. 各図面は、適宜縮尺を変えており、図ごとにスケールバーを掲載し、キャプションに縮尺を表示した。
8. 出土遺物実測図の断面は、土師器を白抜き、須恵器の断面を黒色で塗り表現した。
9. 遺構写真・遺物写真的撮影は櫻木が行った。なお、遺物写真的縮尺は任意である。
10. 調査の実施にあたり、事業者及び関係者の皆様にご協力を得た。記して謝意を表したい。
11. 本書の作成にあたり、下記の報告書を参考にした。
大阪府教育委員会 1993『岡2丁目所在遺跡発掘調査概要報告書』
松原市教育委員会 2020『河合遺跡（C6-3-14）』
12. 調査に関わる出土遺物・図面・写真等の記録類は松原市教育委員会が保管している。

目　次

1. 市内の開発事業と発掘調査	1
2. 確認調査結果	1
3. 岡遺跡（E7-3-52・53）発掘調査結果	4
4. 三宅遺跡出土木製品保存処理	7

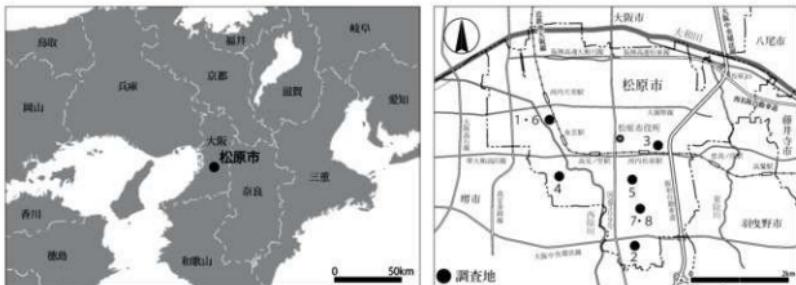


図1 発掘調査位置図

1. 市内の開発事業と発掘調査

令和4年度（2022）4月～12月までに受け付けた文化財保護法第93条第1項に基づく届出、第94条第1項に基づく通知の件数は、334件である（表1）。

令和4年度確認調査、令和2・3年度（2020・2021）の本発掘調査は表2・3のとおりである。

表1 文化財保護法第93・94条に基づく届出・通知取扱い別集計（令和4年4月1日～12月28日）

種別	発掘調査	工事立会	備重工事
93条第1項	25	34	255
94条第1項	2	2	16
合計	27	36	271

表2 令和4年度確認調査一覧（令和4年4月1日～12月28日）

位置図番号	遺跡名・調査番号	調査場所	調査面積(m ²)	調査期間	調査結果	工事目的
1	堀遺跡 C4-3-26	松原市天美南4丁目 278-6、278-7	2.0	2022.05.19	遺構・遺物なし (備重工事)	個人住宅
2	丹南遺跡 E8-4-55	松原市丹南3丁目 687の一部	2.0	2022.07.12	遺構・遺物なし (備重工事)	個人住宅
3	上田町遺跡 E5-4-98	松原市上田2丁目 305-107	2.25	2022.07.12	遺構・遺物なし (備重工事)	市道整備
4	南新町遺跡 C6-3-37	松原市南新町3丁目 225-1の一部	7.5	2022.08.10	遺構・遺物なし (備重工事)	公共施設整備
5	新堂遺跡 E6-3-86	松原市新堂1丁目 562-6、562-7	1.64	2022.09.08	遺構・遺物なし (備重工事)	個人住宅
6	堀遺跡 C4-3-27	松原市天美南4丁目 278-8	2.0	2022.10.14	遺構・遺物なし (備重工事)	個人住宅

表3 令和2年度～令和3年度本発掘調査一覧

位置図番号	遺跡名・調査番号	調査場所	調査面積(m ²)	調査期間	遺構・遺物	工事目的
7	岡遺跡 E7-3-52	松原市岡2丁目618-8・9	21.0	自2021.02.01 至2021.02.05	柱穴・溝・土坑	個人住宅
8	岡遺跡 E7-3-53	松原市岡2丁目618-10	9.03	自2021.04.06 至2021.04.08	柱穴・土坑	個人住宅

2. 確認調査結果

堀遺跡（C4-3-26）位置図番号：1

調査地は堀遺跡の南端に位置する。対象地に1か所の調査区を設定し、GL-1.2mまで掘削した。耕土より下層は、西除川の氾濫堆積物と考えられる砂が主体であった。地山、遺構・遺物は確認されなかった。



図2 堀遺跡調査区全景（西から）

丹南遺跡（E8-4-55）位置図番号：2

調査地は丹南遺跡の中央付近で、江戸時代前期～明治時代初頭の丹南藩屋敷内に位置する。対象地に1か所の調査区を設定し、GL-0.65mまで掘削した。地山は確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。



図3 丹南遺跡調査区全景（南から）

上田町遺跡（E5-4-98）位置図番号：3

調査地は上田町遺跡の東端に位置し、開析谷を利用した溜池である旧寺池の南西堤体付近にある。対象地に1か所の調査区を設定し、GL-1.3mまで掘削した。地山、遺構・遺物は確認されなかった。



図4 上田町遺跡調査区全景（東から）

南新町遺跡（C6-3-37）位置図番号：4

調査地は、南新町遺跡の南端に位置し、南東で、奈良時代の官衙と考えられる長倉建物が確認されている（C6-3-14）。対象地に2か所の調査区を設定し、GL-1.3~1.4mまで掘削した。Tr.1では地山を確認したが、Tr.2は全面に搅乱を受けていた。両調査区とも遺構・遺物は確認されなかった。



図5 南新町遺跡Tr.1 調査区全景（東から）



図6 南新町遺跡調査地位置図（1:5000）

新堂遺跡（E6-3-86）位置図番号：5

調査地は新堂遺跡の中央付近に位置する。対象地に1か所の調査区を設定し、GL-1.35mまで掘削した。耕土より下層は安定した堆積を示していた。地山、遺構・遺物は確認されなかった。



図7 新堂遺跡調査区全景（西から）

堀遺跡（C4-3-27）位置図番号：6

調査地は堀遺跡の南端付近に位置する。対象地に1か所の調査区を設定し、GL-1mまで掘削した。耕土より下層は西除川の氾濫堆積物と考えられる砂が主体であった。地山、遺構・遺物は確認されなかった。



図8 堀遺跡調査区全景（西から）

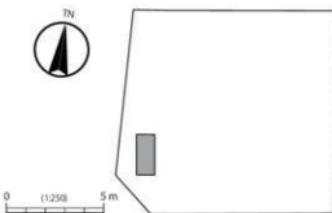


図9 堀遺跡C4-3-26 確認調査区配置図（1:250）

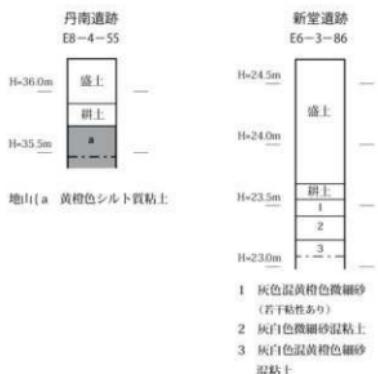
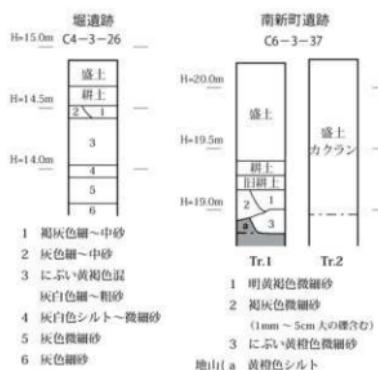
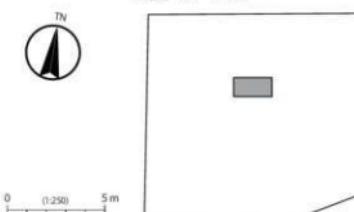
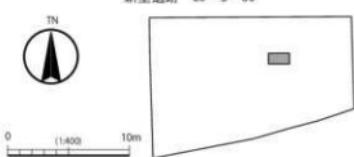
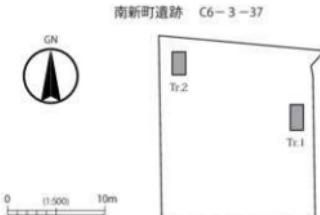
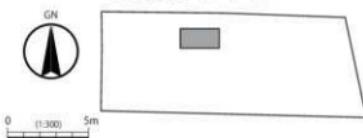
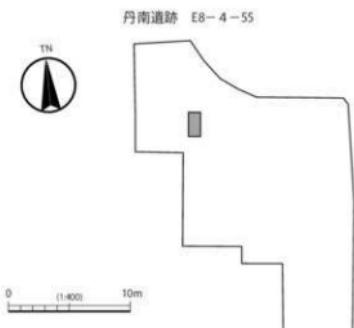


図 10 各確認調査区配置図 (1 : 250・300・400・500)

図 11 各確認調査土層柱状図 (1 : 40)

3. 岡遺跡（E7-3-52・53）発掘調査結果

（1）発掘調査の概要

本章では、令和2・3年度（2020・2021）に、個人住宅建築工事に伴う本発掘調査2件の調査結果を報告する。隣接する調査であるため、まとめて報告する。調査番号は南側がE7-3-52、北側がE7-3-53である（図12）。調査期間等は表3を参照されたい。

なお、周辺の調査については、本調査地の西隣接地で、宅地造成工事に伴い道路部分の一部を松原市教育委員会が本発掘調査を行い、奈良時代～平安時代中期頃を中心とする柱穴や馬衛の出土を確認した（E7-3-45・48：報告書未刊行、図20）。

また、本調査地の南側では、大阪府営松原岡住宅建替に伴い大阪府教育委員会が本発掘調査を行い、古墳時代後期の方墳、奈良時代の掘立柱建物群、平安時代末期の大型建物のほか、松原市域では貴重な発見となった鎌倉時代～室町時代前期の铸造関連遺構・遺物などが見つかっている（大阪府教育委員会 1993）。

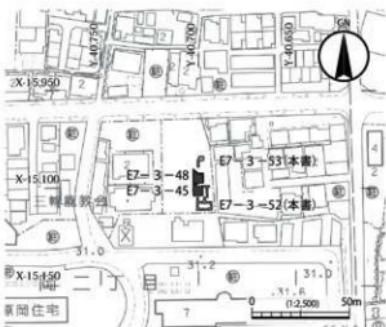


図12 松原市教育委員会本発掘調査区配置図（1:2500）

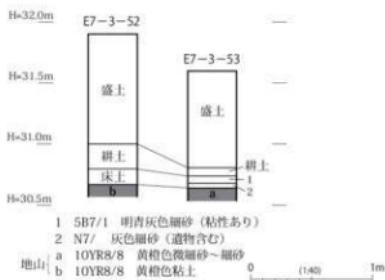


図13 E7-3-52・53 土層柱状図（1:40）

（2）基本層序

調査地は、昭和17年（1942）の航空写真では耕作地であるが、その後公園を経て、宅地となつた。

基本層序は、上から盛土、耕土、床土または旧耕土層、地山である黄褐色微細砂～細砂及び黄褐色粘土の順である（図13）。遺構面は1面で、地面上で確認した。遺構面の標高は、E7-3-52・53ともほぼ同一で、30.6～30.7 mである。

（3）E7-3-52検出遺構・出土遺物

検出した遺構は、柱穴14基、土坑6基、溝2条である。以下、遺物が出土した遺構を中心に報告する（図14～16）。

3土坑 調査区西部で検出した土坑である。南北0.64 m、東西0.5 m、深さ0.18 mをはかる。4土坑を切る。

6溝 調査区南西部で検出した東西溝で、検出長0.55 m、幅0.53～0.7 m、深さ0.2 mをはかる。

7柱穴 調査区北東部で検出した。長軸0.2 m、短軸0.15 m、深さ0.25 mをはかる。8土坑の埋没後に形成されている。

8土坑 調査区北東部で検出した。北東～南西方向に展開するとみられる。検出幅3.4 m、検出長1.7 m、深さ0.2 mをはかる。遺構南端は9溝に切られている。

当遺構からは土師器皿・土師器甕・製塩土器・須恵器杯が出土した。1はての字状口縁の土師器皿で、11世紀前半～中頃に帰属する。2～5は製塩土器である。2～4は直径1～2 mm大の砂粒を多量に含む。8～9世紀代に帰属するものであろうか。9は土師器甕で、頭部から口縁部にかけてくの字状を呈する。8～9世紀代とみられる。10は土師器甕で、口縁部は大きく外方向に開き、口縁端部は上方に肥厚する。8世紀代とみられる。7・8は須恵器杯Bで、8世紀末～9世紀前半頃と思われる。

9溝 調査区中央部で検出した東西方向の溝で、検出長0.55 m、幅0.24～0.5 m、深さ0.3 mをはかる。19柱穴を切る。

本遺構からは、土師器甕11が出土した。頭部は直立ぎみに立ち上がり、外面にはユビオサエ痕跡が認められる。8世紀後半～9世紀前半とみられる。

16柱穴 調査区北西部で検出した直径0.25～0.3 m、深さ0.44 mの柱穴である。

本遺構からは、土師器皿6が出土した。口縁端部は横方向に引き出している。11～12世紀代に帰属するものであろうか。

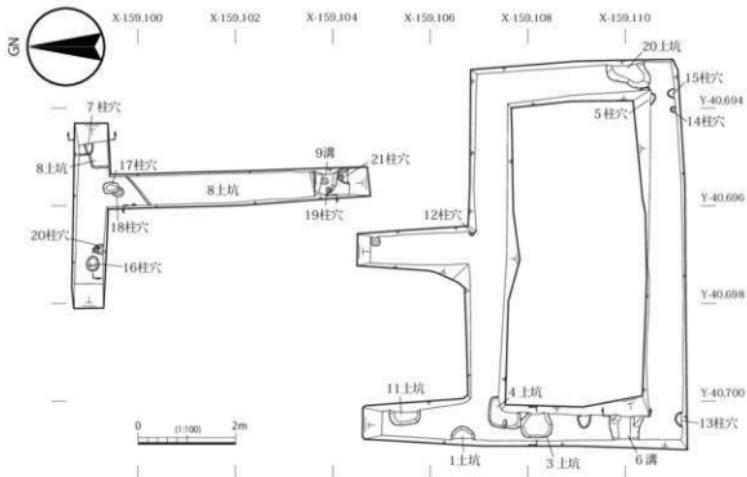


図 14 E7-3-52 遺構平面図 (1:100)

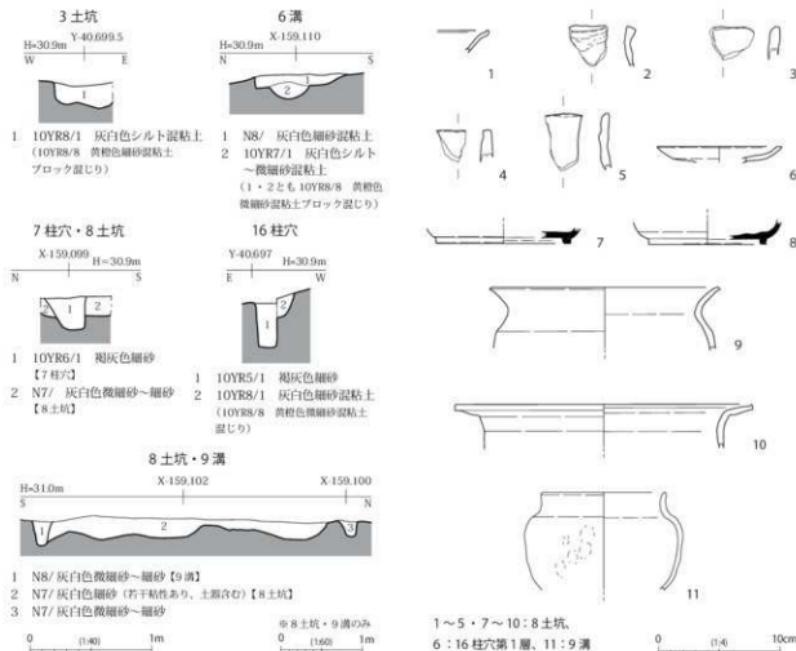


図 15 E7-3-52 遺構断面図 (1:40)

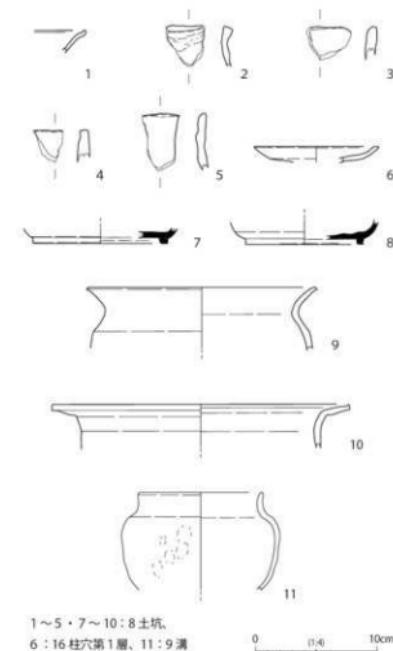


図 16 E7-3-52 出土遺物実測図 (1:4)

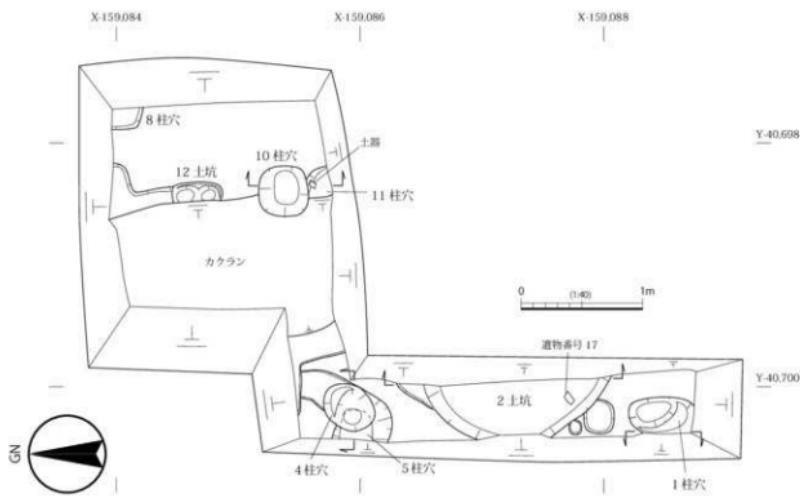


図17 E7-3-53構造平面図(1:40)

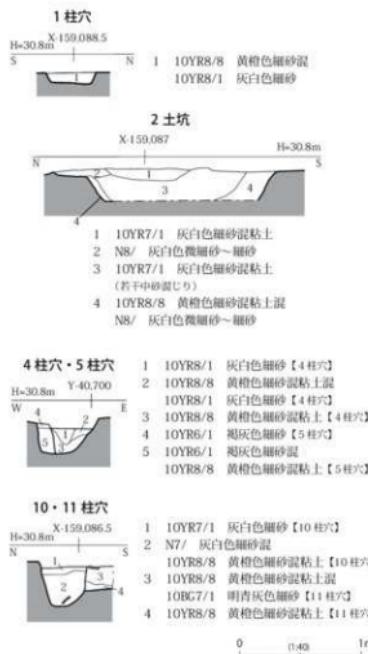


図18 E7-3-53構造断面図(1:40)

(4) E7-3-53 検出構造・出土遺物

検出した構造は、柱穴8基、土坑2基である。調査区中央部には南北方向の擾乱があり、構造は残存していないかった。以下、遺物が出土した構造を中心に報告する(図17~19)。

1柱穴 調査区南部で検出した。長軸0.53m、検出短軸0.29m、深さ0.1mをはかる。

本構造からはての字状口縁をもつ土師器皿12が出土した。11世紀前半~中頃に比定できる。

2土坑 調査区南部で検出した。検出長軸1.75m、検出短軸0.43mをはかる。掘削は検出面~0.25mまで行った。

本構造からは、ての字状口縁をもつ土師器皿13と土師器鍋または甕の把手17が出土している。13は11世紀前半~中頃、17は8世紀代と思われる。

4・5柱穴 4柱穴は直径0.38~0.45m、深さ0.3m、5柱穴は検出長軸0.47m、検出短軸0.41m、深さ0.3mをはかる。4柱穴が5柱穴を切る。

10・11柱穴 10柱穴は直径0.4m、深さ0.36m、11柱穴は検出長軸0.26m、検出短軸0.2m、深さ0.23mをはかる。10柱穴が11柱穴を切る。

10柱穴からは土師器杯14が出土した。口縁端部は内側に巻き込む。8世紀代と思われる。

構造面出土遺物 15・16は高台付きの粗製土師器杯とみられ、8世紀末~9世紀前半頃と思われる。

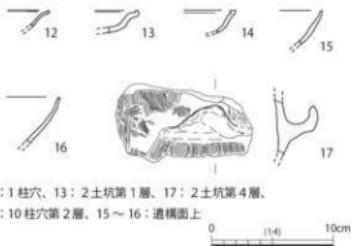


図19 E7-3-53出土遺物実測図(1:4)

(5)まとめ

今回の調査では、小規模な調査面積ではあったが、柱穴や土坑など集落に関わる遺構を検出した。出土遺物が少ないとや遺構によっては時期幅のある遺物が出土したため、詳細な年代は比定できなかったが、概ね8世紀代～11世紀代の遺構・遺物と考えられる。

奈良時代の遺構・遺物は南側の大坂府教育委員会調査地点でも確認されており、人々の活動の痕跡が本調査地付近まで広がることがわかった。

一方、平安時代前期～中期頃の遺構・遺物は、南側の大坂府教育委員会調査地点では確認されていないようだが、本調査地に隣接する松原市教育委員会の調査(E7-3-45・48)でも、この時期の遺構・遺物が確認されている。そのため、平安時代前期～中期頃の集落は本調査地付近に所在する可能性が十分考えられる。また、隣接する本発掘調査E7-3-45実施前の確認調査では、E7-3-45・48の西側には遺構・遺物は確認できなかったため、今回の調査で確認した集落域は東側に展開する可能性がある。

この後、12世紀後半になると、集落の中心は南側の大坂府教育委員会調査地点に移ると考えられる。

現時点では、未報告の発掘調査があるため、調査地付近の土地利用の変遷については改めて整理したい。



図20 E7-3-45調査区全景(東から)

4. 三宅遺跡出土木製品保存処理

令和4年度の国庫補助事業として実施した出土品の保存処理について報告する。保存処理の対象は、平成23年度(2011)の民間開発に伴う三宅遺跡(E3-3-30)の発掘調査で出土した木製品である。調査では9～10世紀の遺物を伴う1井戸を検出しており、内部には木製の井戸枠が残存していた。井戸枠は、上段が横長の板材4枚を平面正方形に組み合わせ2段積み上げる構造で、下段は船底を転用した縦長材(長さ約1.8m)を4枚と建物の柱材1本を平面円形に組み合った構造で、現地に埋没保存した下段の縦長材2枚以外は全て取り上げている。井戸枠下段の部材は長大なため日陰で自然乾燥の後に室内で保管しており、上段の部材は槽内に水漬けで保管している。

今回は、井戸枠上段の板材のうち依存状況が良好な2枚について保存処理を実施した。樹種同定の結果、2枚とも針葉樹のヒノキ科ヒノキ属(*Chamaecyparis* sp.)であった。これらの保存処理については高級アルコール法(特許出願公開番号2013-181018「動植物又は出土文化遺物の保存方法」)を採用し、株式会社吉田生物研究所に業務を委託した。処理に使用した薬品は低級アルコール(メチルアルコール)及び高級アルコール(オクタデカノール)で、破片がないため処理後の接合と補彩色は実施していない。

表4 保存処理実施木製品法量一覧

番号	名称	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)
31	井戸枠・板材	114.4	28.0	3.8
32	井戸枠・板材	109.3	28.8	3.5



図21 木製品(番号31)保存処理前状況写真



図22 木製品(番号32)保存処理前状況写真



図23 E7-3-52 1・11 土坑検出状況（東から）



図27 E7-3-53 東壁断面（西から）



図24 E7-3-52 3土坑断面（南から）



図28 E7-3-53 1柱穴完掘状況（東から）



図25 E7-3-52 16柱穴断面（北から）



図29 E7-3-53 2土坑全景（西から）



図26 E7-3-53 調査区全景（北から）



図30 E7-3-53 10・11柱穴断面（西から）

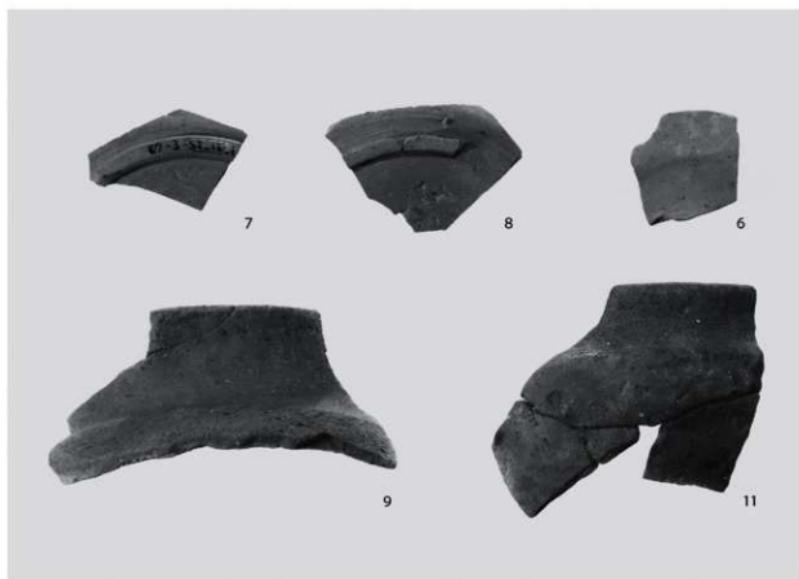


図 31 E7-3-52 出土遺物

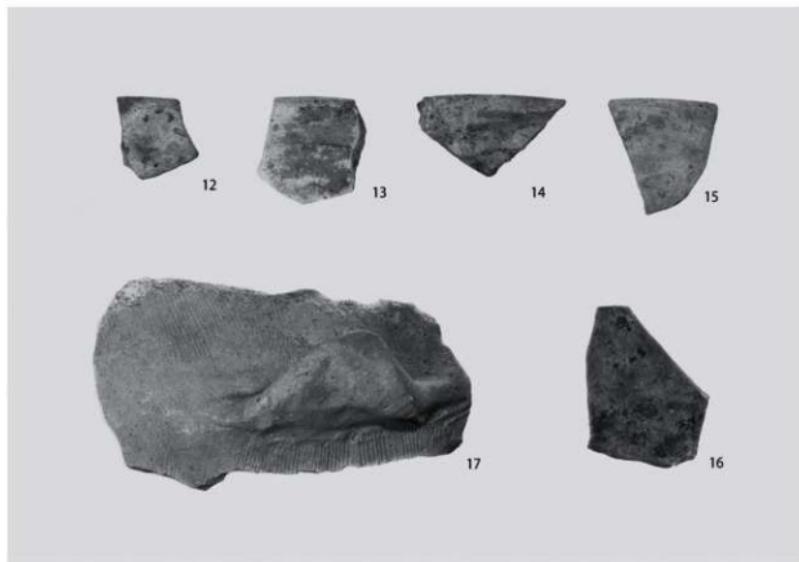


図 32 E7-3-53 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	れいわねんどこっこほじょじょまつぱらしないいせきはつくちうさほくしょ							
書名	令和4年度国庫補助事業松原市内遺跡発掘調査報告書							
副書名	個人住宅建築工事等に伴う確認調査及び岡道跡E7-3-52・53発掘調査報告書							
シリーズ名	松原市文化財報告							
シリーズ番号	第13冊							
編著者名	櫻木規秀(編)、大矢祐司							
編集機関	松原市教育委員会							
所在地	〒580-8501 大阪府松原市阿保1丁目1番1号 TEL 072-334-1550(代)							
発行年月日	2023年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
堀遺跡	松原市大美南4丁目	市町村	遺跡番号	34°35'52"	135°32'09"	2022.05.19	2.0 m ²	個人住宅
丹南道路	松原市丹南3丁目	27217	19	34°33'30"	135°33'28"	2022.07.12	2.0 m ²	個人住宅
上田町道路	松原市上田6丁目	27217	30	34°33'32"	135°33'39"	2022.07.12	2.25m ²	古道整備
南新町道路	松原市南新町3丁目	27217	14	34°35'15"	135°32'13"	2022.08.10	7.5 m ²	公共施設整備
新堂道路	松原市新堂1丁目	27217	32	34°33'14"	135°33'13"	2022.09.08	1.64m ²	個人住宅
堀遺跡	松原市大美南4丁目	27217	19	34°35'52"	135°32'09"	2022.10.14	2.0 m ²	個人住宅
岡道跡	松原市岡2丁目	27217	38	34°33'54"	135°33'23"	2021.02.01 2021.02.05	21.0 m ²	個人住宅
岡道跡	松原市岡2丁目	27217	38	34°33'55"	135°33'23"	2021.04.06 2021.04.08	9.03m ²	個人住宅
三宅道路	松原市三宅中3丁目	27217	23	34°35'11"	135°33'18"	2021.08.24 2021.09.01	27.66m ²	宅地造成(出土品保存処理のみ)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
堀遺跡	集落		なし		なし			
丹南道路	集落・階級1か		なし		なし	丹南溝陣屋内の確認調査		
上田町道路	集落		なし		なし			
南新町道路	集落		なし		なし			
新堂道路	集落		なし		なし			
堀遺跡	集落		なし		なし			
岡道跡	集落	奈良～平安時代	柱穴14・土坑6・溝2		土師器・埴輪器			
岡道跡	集落	奈良～平安時代	柱穴8・土坑2		土師器・埴輪器			
三宅道路	集落	平安時代	井戸・構		土師器・埴輪器・瓦・木製品	出土品の保存処理を実施		
要約	個人住宅建築工事等に伴う確認調査では、今後の埋蔵文化財保護のための基礎資料を得ることができた。 岡道跡(E7-3-52・53)では、奈良時代～平安時代中期頃の集落を確認した。							

松原市文化財報告 第13冊

令和4年度国庫補助事業松原市内遺跡発掘調査報告書

個人住宅建築工事等に伴う確認調査及び岡道跡E7-3-52・53発掘調査報告書

発行年月日 令和5年(2023)3月31日

編集・発行 松原市教育委員会

〒580-8501 大阪府松原市阿保1丁目1番1号

電話 072-334-1550(代表)

印刷・製作 株式会社近畿印刷センター

〒582-0001 大阪府柏原市本郷5丁目6番25号